

大分県姫島村における自立的行政施策と住民の居住環境評価に関する研究  
—地方における自立的な地域運営の展望—



山村 宗一郎

## 研究の背景

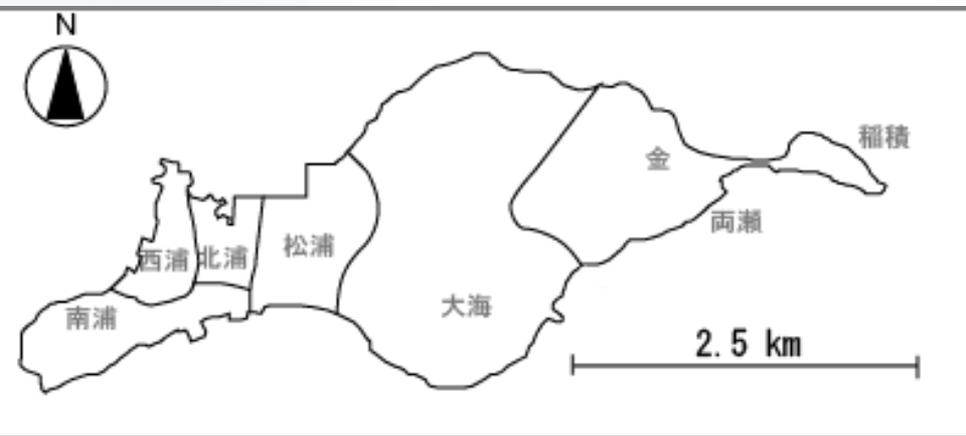
日本における離島は、地域の歴史、伝統などが蓄積され、自立的な地域として成立していた。しかし現代では、全国的に人口の減少・高齢化などが起き、更には平成の大合併により対岸地域の一部となる島が現れるなど、離島を取り巻く環境は大きく変化している。

## 研究の目的

大分県姫島村は、市町村合併にもかかわらず独自の方法で地域を維持・発展させていることから、その地域における地域経営の取り組みと環境評価の現状を分析することを目的とする。

# 姫島村の概要

## 姫島村の概要



瀬戸内海西端の離島で、国東半島の伊美港より北へ6kmの地点に存在する。

人口	2537 人
世帯数	970 世帯
面積	6.8 km <sup>2</sup>
周囲	13.7 km
フェリー運行回数	12 便

# 行政区ごとの特徴

行政区ごとの特徴

		1区		2区		3区		4区		5区		6区		合計	
行政区															
人口		419	16.5%	480	18.9%	394	15.5%	806	31.8%	205	8.1%	233	9.2%	2537	
世帯数		236	14.0%	182	18.8%	179	18.5%	334	34.4%	60	6.2%	76	8.1%	970	
標高		0m		0m		0m		0m		0~15m		0~40m			
中心までの距離		918m		684m		492m		523m		3704m		5190m			
用途	商業施設	宿泊施設	1	7.1%	7	50.0%	1	7.1%	4	28.6%	0	0.0%	1	7.1%	14
		サービス	2	11.8%	2	11.8%	2	11.8%	10	58.8%	1	5.9%	0	0.0%	17
		物販関連	2	4.1%	8	16.3%	11	22.4%	24	49.0%	1	2.0%	3	6.1%	49
	公共施設	3区	4	5.7%	6	17.1%	14	40.0%	8	22.9%	1	2.9%	4	11.4%	35
		業務施設	1	5.3%	4	21.1%	3	15.8%	10	52.6%	1	5.3%	0	0.0%	19
		公園	2	8.3%	5	20.8%	5	20.8%	7	29.2%	2	8.3%	3	12.5%	24
		工場関連	1	9.1%	3	27.3%	3	27.3%	3	27.3%	1	9.1%	0	0.0%	11
	合計		11		35		39		66		7		11		169

1~4区は**平野地域**で構成され、5~6区では**山間地域**で構成される。

1~4区は人口・用途施設が多く、中心までの距離は近い。一方、5~6区は人口・用途施設が少なく、中心までの距離は遠い。

\* 村内と村外を結ぶ中枢点が姫島村の中心になるという観点から、フェリー乗り場を姫島の中心と見なす

# 姫島村で行われる地域施策の特徴と全国的傾向

## 地域包括ケア\*1

2006年4月1日、地域包括ケアを有効に機能させるために、地域包括支援センターが**全国に3436箇所**設置されており、設置主体は市町村の**直営が34.3%、委託が65.7%**となっている。職員の配置状況を見ると、「**3人以上6人未満**」で**全体の7割以上**を占めている。

設置主体

委託先		箇所数	割合
直営		1179	34.30%
委託		2257	65.70%
内訳	社会福祉法人	1085	31.60%
	社会福祉協議会	427	12.40%
	医療法人	396	11.50%
	民法法人	146	4.20%
	広域連合等の構成市町村	86	2.50%
	株式会社	50	1.50%
	NPO法人	14	0.40%
	その他	53	1.50%
合計		3436	100%

職員の配置状況

人数	箇所数	割合
12人以上	52	1.50%
9人以上～12人未満	73	2.10%
6人以上～9人未満	236	6.90%
<b>3人以上～6人未満</b>	<b>2546</b>	<b>74.10%</b>
3人未満	529	15.40%
合計	3436	100%

全国的な傾向としては、委託が65%以上であるのに対して、姫島村は**村の直営**である。

また、同村の職員の配置状況は4人であり、「3人以上6人未満」に該当することから**全国の約74%と同程度**だといえる。

\*1:地域包括ケアとは、高齢者を継続的かつ包括的にケアするこ

# 姫島村で行われる地域施策の特徴と全国的傾向

## ワークシェアリング

同村におけるワークシェアリングは地方行政団体で行われていることから、ラスパイレス指数\*2について考察する。

地方別にみても、最も値が高い地方は「**関東地方**」101.2となっている。一方、「北海道地方」90.5は大幅に低い値となっている。

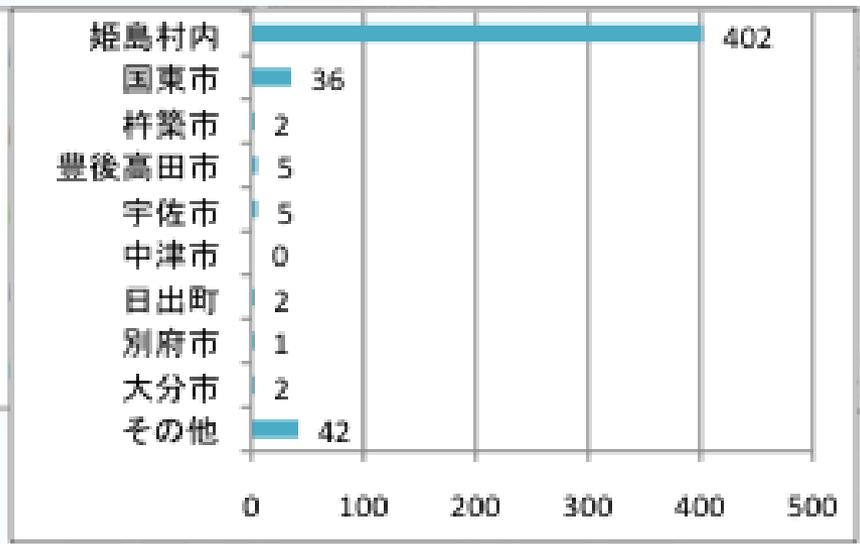
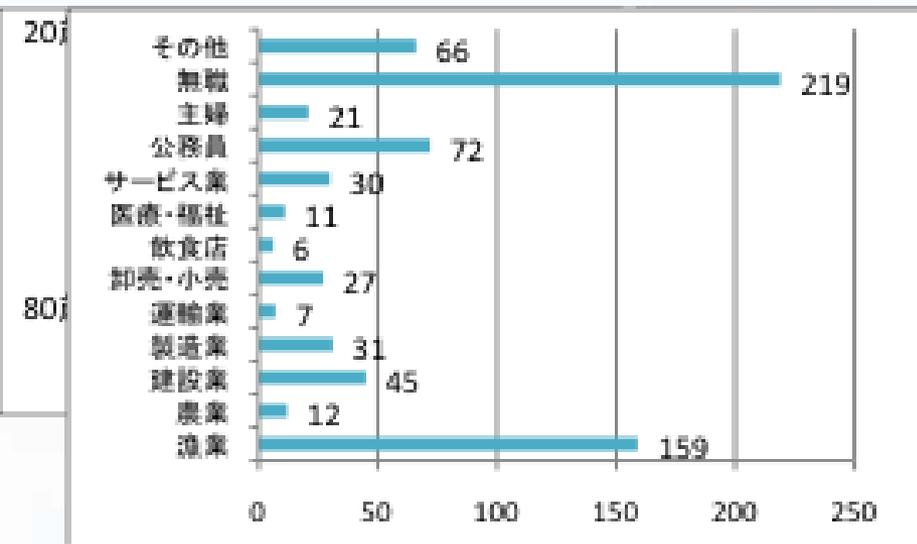
次に、全国市町村の下位団体をみると、「**夕張市**」68.0が最も低く、次いで、「**姫島村**」70.6となっている。また、離島を含む市町村のみで比較すると、「**姫島村**」70.6が最も低い。

地方別		全国市町村(下位)	
北海道地方	90.5	夕張市(北海道)	68.0
東北地方	100.4	姫島村(大分県)	70.6
関東地方	101.2	玉滝村(長野県)	74.2
北陸地方	99.3	上砂川町(北海道)	74.9
甲信越地方	99.9	栗島浦村(新潟県)	74.9
東海地方	101.0	離島を含む市町村(下位)	
近畿地方	99.5	姫島村(大分県)	70.6
中国地方	97.1	栗島浦村(新潟県)	74.9
四国地方	97.6	海士町(島根県)	77.9
九州地方	100.3	上島町(愛媛県)	82.0
沖縄地方	99.5	知夫村(島根県)	84.4
大分県平均	100.9	離島平均	94.2
全国平均			98.8

姫島村のラスパイレス指数はかなり低い値であることがわかり、また、この値から**財政再建団体とほぼ同様の自律的な取り組みをしている**ことも理解できる。

\*2:各地方公共団体の一般行政職の平均給与額を、職員の学歴別・経験年数別構成などが国と同一であると仮定し、国家公務員の平均給与額を100として算出した指数。

# 姫島村の実態調査



「年齢」は、**40代以上が3割を占めている**。「入居状況」は子供がいない世帯が過半数を超えているが、「村外の家族」をみると子供が過半数以上を占めており、**子供は島を出ている傾向があることが分かる**。

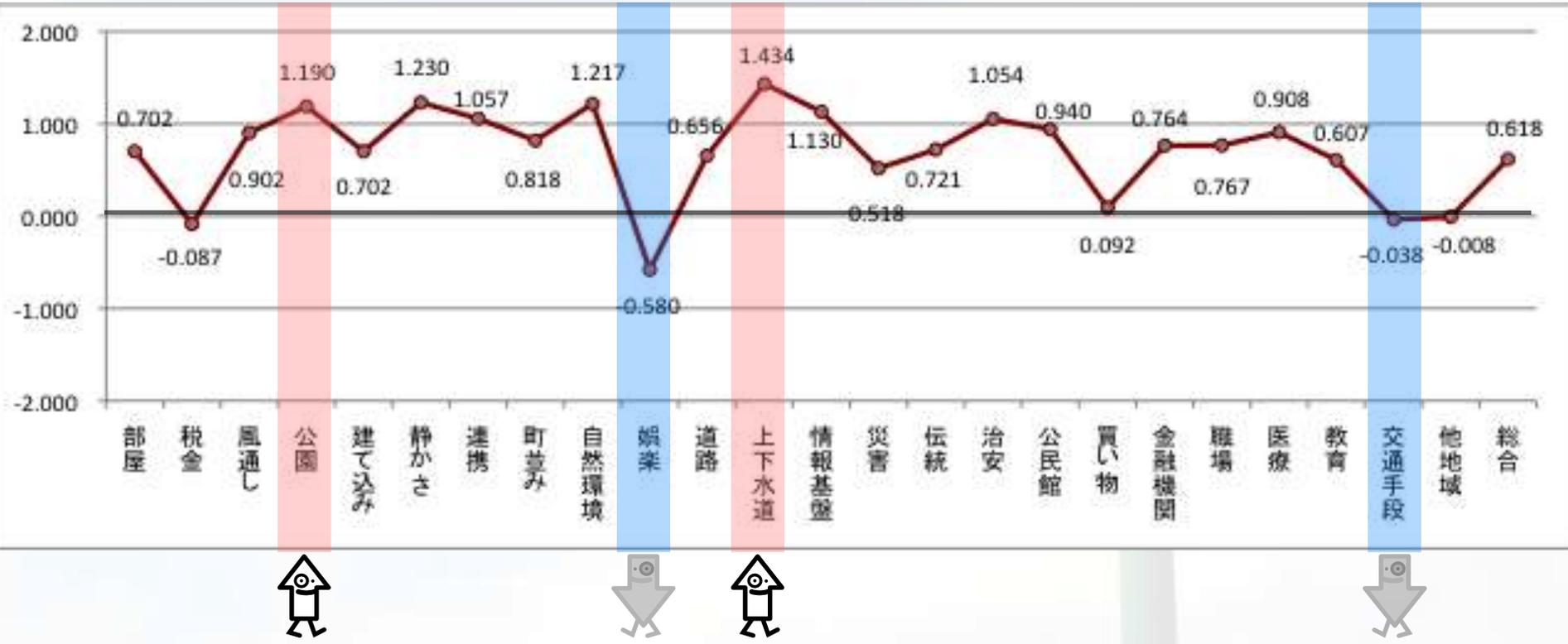
「世帯主の職業」をみると、無職が最も多く、次いで漁業、公務員となっており、「勤務地」は姫島村内が8割を占めていることから、**島内に就業の場がある程度準備されている**ことが分かる。

アンケート調査の概要	
形式	記述式
対象世帯数	全世帯(970世帯)
期間	2008年11月7日～11月27日
回収率	79.1%(767世帯)

# 姫島村の実態調査

居住環境の満足度に関する25項目について、2(満足)、1(やや満足)、-1(やや不満)、-2(不満)のパラメータを与え集計した。全体的に**8割以上の評価値が正の値**を示しており、居住者の評価は高いことが分かる。特に「**上下水道**」、「**公園や散歩コースの近さ、数**」の項目は満足度が高い。しかし「**娯楽**」、「**交通手段**」の項目の満足度は高くない。

居住環境評価



交通を除く**基盤整備に関する項目**は満足度が高いが、**娯楽・利便性に関する項目**は低い。

# 姫島村の実態調査

ここでは、姫島村における居住環境の満足度を評価する際に重要であると考えられる24の項目について、主成分分析を行った。

主成分分析結果

- ・ 第一主成分：生活基盤の軸
- ・ 第二主成分：文化・交流の軸
- ・ 第三主成分：周辺環境の軸
- ・ 第四主成分：住環境の軸
- ・ 第五主成分：生活利便性の軸

	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	第5主成分
情報基盤整備	0.749	0.054	0.193	0.139	0.039
祭りや文化などの伝統の継承	0.731	0.233	0.102	0.147	0.074
災害時の安全性	0.690	0.257	0.195	0.111	0.210
村内の治安や風紀	0.611	0.219	0.201	0.188	0.209
公民館の利用	0.518	0.501	0.184	0.015	0.030
上下水道の整備状況	0.507	-0.017	0.410	0.121	0.287
環境環境	0.190	0.717	-0.002	0.244	-0.084
村外の他地域との交流	0.222	0.656	0.202	0.003	0.212
教育施設や教育環境	0.233	0.579	0.231	0.025	0.199
村外への交通手段	0.006	0.547	0.291	0.243	0.324
医療施設やサービスの充実	0.369	0.482	0.096	0.019	0.338
周囲の静かさ	0.061	0.042	0.688	0.330	0.053
自然環境の豊かさ	0.197	0.187	0.687	0.128	0.078
町並み、家並み	0.378	0.291	0.539	0.293	0.061
地域内の連携、助け合い	0.366	0.303	0.510	0.152	0.055
道路の安全性、整備状況	0.355	0.279	0.388	0.027	0.245
家の風通しや日当たり	0.156	0.033	0.171	0.757	0.073
部屋の広さ、間取り	0.030	0.121	0.123	0.743	0.104
建物の建込み具合	0.229	0.049	0.376	0.618	-0.004
家賃、借借、固定資産税など	0.124	0.172	0.071	0.449	0.221
職場までの近さ、数	-0.021	0.148	0.274	0.064	0.759
金融機関までの近さ、数	0.344	0.134	-0.139	0.137	0.703
買い物をする場所の近さ、数	0.287	0.437	-0.208	0.305	0.458
公園や散歩コースの近さ、数	0.253	0.119	0.289	0.235	0.449
固有値	7.930	1.785	1.388	1.145	1.017
累積寄与率	33.043	40.481	46.264	51.035	55.271

# 姫島村の実態調査

## 重回帰分析結果

	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	第5主成分	総合評価
	生活基盤	文化・交流	周辺環境	住環境	生活利便性	Y
偏回帰係数	0.49	0.49	0.39	0.33	0.42	定数 0.62
標準誤差	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
標準化係数	0.34	0.34	0.27	0.23	0.29	-
有意確率	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
重回帰式	$Y=0.49X1+0.49X2+0.39X3+0.33X4+0.42X5$					
			重相関係数(R)=0.668	決定係数(R <sup>2</sup> )=0.447		

居住環境の総合評価への軸の関係性を見るため、重回帰分析を行った。偏回帰係数をみると**第1主成分の生活基盤の軸、及び第2主成分の文化・交流の軸が最も大きく0.49ptとなり、総合評価との関係性が強い**と考えられる。

# 姫島村の実態調査

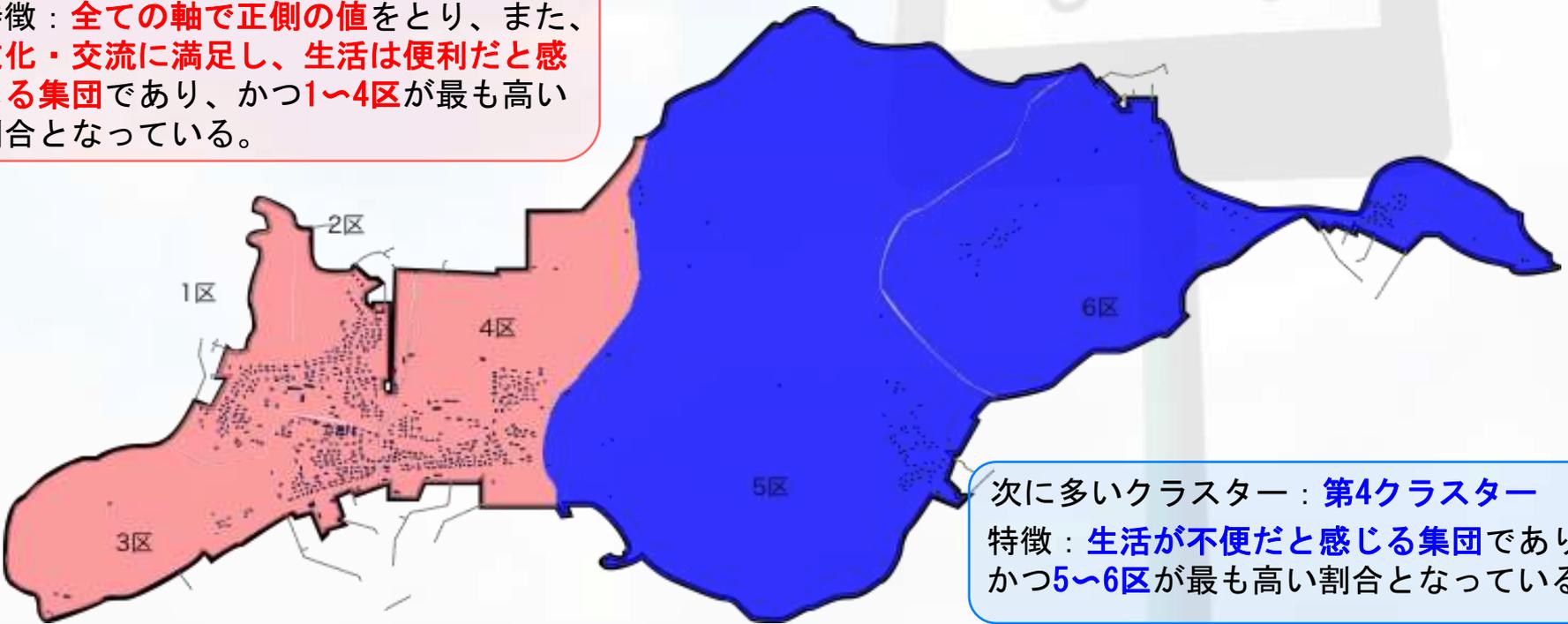
居住環境評価の居住者の類型化のため、クラスター分析を行った。

クラスター分析結果

行政区ごとのクラスター結果

6分類		第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	第5主成分	行政区ごとのクラスター結果											
クラスター名	サンプル数	生活基盤	文化・交流	周辺環境	住環境	生活利便性	1区		2区		3区		4区		5区		6区	
第1クラスター	104	0.172	0.755	0.168	0.540	0.635	19	26.8%	18	31.6%	25	38.5%	32	27.4%	2	11.1%	8	19.5%
第2クラスター	49	-0.479	-0.943	0.379	0.861	-0.059	12	16.9%	6	10.5%	6	9.2%	20	17.1%	2	11.1%	3	7.3%
第3クラスター	49	-0.213	-0.640	0.593	-1.369	0.557	11	15.5%	5	8.8%	9	13.8%	16	13.7%	4	22.2%	4	9.8%
第4クラスター	97	0.190	0.313	0.414	-0.270	-0.931	14	19.7%	14	24.6%	13	20.0%	20	17.1%	10	55.6%	26	63.4%
第5クラスター	24	-1.703	0.112	-1.725	-0.250	0.236	6	8.5%	3	5.3%	6	9.2%	9	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
第6クラスター	46	0.836	-0.738	-1.388	0.020	-0.126	9	12.7%	11	19.3%	6	9.2%	20	17.1%	0	0.0%	0	0.0%
total	369						71	100.0%	57	100.0%	65	100.0%	117	100.0%	18	100.0%	41	100.0%

最も多いクラスター：**第1クラスター**  
 特徴：**全ての軸で正側の値**をとり、また、**文化・交流に満足し、生活は便利だと感じる集団**であり、かつ**1~4区**が最も高い割合となっている。



次に多いクラスター：**第4クラスター**  
 特徴：**生活が不便だと感じる集団**であり、かつ**5~6区**が最も高い割合となっている。

同村は全国的な傾向からみると、**実施されている各施策の質は一定の水準以上**であり、それらは住民の協力によって成立しているといえる。

居住環境については、数十年前は、島で生まれた人の多くは島内で生活を続けてきたことがわかる。しかし近年、若い世代の島離れが顕著にみられ、この問題を解決するには**娯楽環境の設置**や、**若い人が働くための就労の場の確保**が重要な課題だといえる。居住環境評価からも住みやすい島と評価されているが、一方で、クラスター分析結果をみると1〜4区と5〜6区の間では、住民の意識に差がみられる。

今後は、**居住環境評価と、空間的・経済的状況の関係性のメカニズムが明らかにし**、全国の離島における姫島村の位置付けを把握し、**居住者にとってより魅力的な空間を創出していく**こと、また、地方都市にとって自立的な取り組みの糸口となるよう、再度検討を行う必要があるといえる。